



「がんぺーちゃんと もりのともだち」

学校法人聖愛学園 聖愛幼稚園 野口哲也

対象児 4歳児(年中児)後半～5歳児(年長児)

ねらい 動植物の命を大切にする

つなげたい「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

声かけアイデア例

声かけ例・予想される子どもの姿

留意点

●視聴前の声かけ例

「お家で犬や猫を飼っている人、飼ったことのある人はいるかな？」

・ある! / うちの犬(猫)は～だよ!

○飼っていない子のために、飼っている子に自らの体験を語ってもらうと良い。(保育者の経験を語るのも良い)

「ご飯をあげたり、お散歩したり、時にはウンチをお掃除してあげたり、かわいいけれど、ちゃんとお世話しないとイケないから大変だよね」

○ぬいぐるみと違い、生き物は「可愛がる」だけではなく「世話すること」も必要になる。そのことに軽く触れてから視聴し、後でもう一度一緒に考えたい。

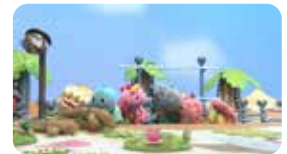
「今日のお話は、がんぺーちゃんが、ポンポンっていう生き物を飼おうとするお話です。とってもかわいいポンポン、でも、ポンポンって何の生き物なんだろうね・・・」

○今回、いつものがんぺーちゃんと違う雰囲気ですスタートするので、怖がりそうな子に少し予告しておくのも良い。

●番組を視聴する

ざわざわえんのがんぺーちゃん

「がんぺーちゃんと もりのともだち」



●発問①「がんぺーちゃん、またポンポンに会えるといいね」

・悲しい / かわいそう / あのキノコがポンポンになるかも / それは同じポンポンなの？

○子どもたちの感情が揺さぶられた直後なので、冒頭から振り返らず、敢えてこの質問から試みてはどうでしょうか。

生き物を飼っていても「死」という別れに直面することがある(経験者もいるかも)。悲しいときは悲しんで良いし、少しずつポジティブな気持ちに切り替えていければ良い(また会える、天国でポンポンもがんぺーちゃんのこと見てるかも etc)。

●発問②「ポンポンってキノコ魔女からみんなを守るために
封印のところにいたんだね」
「ポンポンの吹き出した粉って、なんだったのかな？」

・キノコ魔女をやっつけるため / サボテンも枯れた / くしゃみが出た
(花粉のように、意味があるけれど、それで困ることもある)

○「封印」の概念が難しいときは、「出てこないように置いていた重りの石が雷で動いちゃったんだね」という補足しても良い。

万が一、封印が解けてしまったときに、弱体化させる「粉」を出せるポンポンが、封印を守っているわけで、「勝手に連れ帰ってしまうこと」の是非を聞いても面白い(勝手に野草を取ったり、野生の生き物を持ち帰ったりしてはいけないということもふくめて)

●発問③「ルルンとモイクんは、ポンポンがうんちしたら飼うのをやだって
言ってたね。なんでだろう？
がんぺーちゃんはちゃんとお世話できたかな？」

・うんちが嫌だったから？ / めんどくさくなったのでは？
・お風呂で洗ってあげてた / 仲良く遊んでた

○犬猫などを飼っている子どもたちの意見を聞いても良い。飼い主の「責任」について考えてみるのも良い。がんぺーちゃんが一生懸命お世話をするこの大切さ、そしてだんだん深まっていく関係性にも気付いてほしい。

●発問④「キノコ魔女、怖かった？ がんぺーちゃんがキノコにされそうになったら
どうなったか覚えているかな？」

○ポンポンは自分の責務として、キノコ魔女に立ち向かったのだろう。でも、優しくしてくれたがんぺーちゃんだから守りたかったのかも……。ポンポンの気持ちを様々な角度から考えてみるのも面白い。

●発問⑤「キノコ魔女のところに戻らなかったら、がんぺーちゃんと一緒に
暮らせたんじゃないかな？」

・キノコ魔女をやっつけられない! / みんなキノコにされちゃうかも / ポンポンの役目だから

○「自分の与えられた役目」を理解し、それを最優先にしたポンポンの責任感。果たそうと家を飛び出した。「責任感」。そして、たとえ自分が消えても、みんなを助けようとする「自己犠牲の気持ち」、どちらも今の世の中だからこそ大切にしたい。

★先生方へのメッセージ

ちょっと怖いオープニングとポンポンのなんとも言えない可愛さとのギャップが印象的なお話です。生き物を飼って、しっかりと世話をし、そして時に悲しい別れを経験することで、子どもたちは命の大切さを学びます。すべての子どもたちにそういう機会があるとは限りませんが、がんぺーちゃんとポンポンの物語を一緒に味わい、登場人物の気持ちになっていろいろなことを考え、伝え合うことで気づけることもたくさんあると思います。

「誰かを助けるために、自分に与えられた役割をしっかりと果たす」、かわいらしい見た目からはなかなか分からない「ポンポンの芯の強さ」に勇気もらった気がします。

★保護者の方へのメッセージ 愛知淑徳大学 佐藤朝美

～『がんぺーちゃんと もりのともだち』を通じて
「自然との共生や命の大切さ」について、親子で語り合きましょう～

森の奥でみつけた可愛いキノコ風の生き物・ポンポン。そのお世話をしながら愛着を持ち始めるがんぺーちゃんの様子は、とても微笑ましいですね。しかし、お世話を続けることは大変で、ルンルンやモイクくんは飽きてしまい、一緒に世話をしてくれません。さらにポンポンのせいで家族はくしゃみが止まらず、畑のサポテンもしおれてしまいます。これにより、がんぺーちゃんは悩みます。家庭でペットや植物を育てた経験があるおうちの方であれば、このような懐かしくも複雑な感情を思い出したのではないのでしょうか。

この動画では、自然とのかかわりや命の大切さをテーマにしており、がんぺーちゃんの心の動きやポンポンとの共生の難しさから、たくさんの考えるべきポイントがあります。お子さんの興味や疑問に合わせて、ぜひ一緒に話し合ってみてください。

下記のような声かけとポイントを参考にしてください。

1. 番組を見てどんなことを思ったかな？

(親の感想も交えて、親子での話し合いの習慣を身につけましょう)

2. がんぺーちゃんは、ポンポンのことをどのように思っていたのかな？

(育てる喜びや愛着、葛藤や悩み、世話をする責任の気持ち、最終的な別れなどの感情を一緒に考えます)

3. ポンポンを家で育てることについてどう思う？

(ポンポンがいることによる環境への影響を考え、自然界から生き物を持ち帰ることの倫理的な問題にも触れましょう)

4. ポンポンに似たキノコを見つけたね。がんぺーちゃんはいつかまたポンポンに会えるかな？

(別れがあっても、新たな出会いや希望があることを感じてもらいましょう)

この物語を通じて、子どもたちは自然と生命について深く考え、それぞれの生き物との関わり方を学ぶ良い機会となります。おうちの方の体験談があれば、是非伝えてください。また、ポンポンのかわいらしさや魔女が怖かったことなども感想を述べあうのもいいですね！一緒に話し合いながら、お子さんの感情の理解を深め、自然への敬意と世話をすることへの責任感を育てていきましょう。